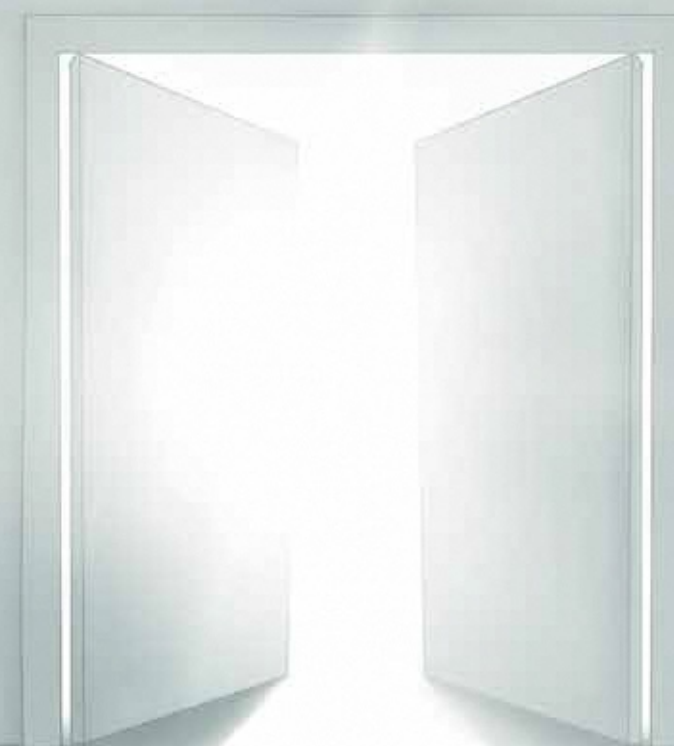


見守り人！

mimamori-bito

vol.8
2026 年版

認知症に
なっても
安心して
暮らせる町に



厚生労働省が進めている
「新しい認知症観」という考え方が
少しずつですが広がっています。
昔と今では、医療も介護の現場も、
そして当事者自身も変わってきました。
今度はまわりに暮らす皆さんが変わる番です。
認知症になったからといって
絶望する必要はありません。
地域の仲間とつながれば、
もっとできることが増えます。
もっと自分らしく暮らすことができます。
みんなで未来の新しい扉を開きませんか。

なにもできなくなるわけじゃない。

Instagram



発行：岩国市認知症の人の見守り支援協議会
事務局：岩国市今津町1丁目10-9

☎0827-30-0802
グループホームあかしあ内

つながりカフェ

昨年、新たにオープンした認知症カフェ。
運営している、社会福祉法人通津南和会
つづの里の雑賀真理子さんにうかがいました。

Q どんな一年でしたか？

とにかく試行錯誤の一年でした。来られる方の「こんな
ことしたい」を聞きながら、クラフトをやったり、介護予防
をやったり、子供たちがきてくれたらな、とキッチンカーを
呼んだこともありました。今度は神楽を呼べたらみなさん
喜ばれるんじゃないかな、と思っています。

Q これからどんなカフェに？

認知症になると、壁ができる。恥ずかしい事じゃない
はずなのに、もう出かけられないみたい。だからここで
お茶をのみなから、普通に他愛もないことを、そんなに
重要なことじゃないことを誰かに聞いてもらう、自分のこ
とを話したり、相談したり、そんな出会いの場になったら
いいなあと。そしてここで思いっきり笑ってくれたら嬉しい。
それからデイサービスに来られていた方が卒業される、そ
れ自体は喜ばしいことですが、人との繋がりという面
ではどうなのかと。だからそれで繋がりを切ってしまうの
ではなくて、ここに来ればまた繋がれる。そんな通リ道み
たいな場所でもありたいと思っています。



会 場／岩国市通津字迫田11117-297
つづの里 地域交流室
連絡先／0827-39-1025
日 時／月1回(第3土曜日)
午後1時30分～3時00分
参加費／200円



認知症カフェに行ってみよう！

岩国には認知症カフェが他にも6か所開かれています。
参加費さえ出せば誰でも美味しいコーヒーやお菓子がいただけます。
ぜひ皆さんも出かけしてみませんか。

カフェ名	開催場所	日 時	参加費	連絡先
あかりカフェ	岩国市錦見5-17-28 まちの住民館あかり	(月1回)第1土曜日 13時30分～15時30分	300円	050-5329-3197
小さい輪大きい輪カフェ	岩国市天尾262 旧天尾小学校	(月1回)第3火曜日 10時00分～12時00分	200円	090-7594-9155
笑顔のじかん	岩国市玖珂町4963-4 玖珂リハビリセンター	(月1回)第2火曜日 13時00分～15時00分	100円	090-7212-5855
カフェみらい	岩国市今津町3丁目1-14 今津ふれあいセンター	(月1回)第3木曜日 13時00分～15時00分	100円	090-8608-7779
あさひカフェ	岩国市旭町1丁目8-19 旭第一会館	(月1回)第2火曜日 13時30分～15時30分	100円	090-3374-8554
あたごカフェ	岩国市門前町2丁目35-2 愛宕供用会館	(月1回)第1火曜日 13時00分～15時00分	200円	080-5666-3221

協賛金ありがとうございました！

岩国市キャラバン・ メイト連絡会	岩国市社会福祉協議会	岩国市自治会連合会	岩国市民生委員 児童委員協議会	岩国地区認知症介護者の会 さくら草の会
一般社団法人 岩国薬剤師会	芸防地区タクシー協会	㈱CGSコーポレーション	若年性認知症の人の 家族のつどい「くつろぎ花❀花」	生活協同組合コープやまぐち 岩国センター
中国電力ネットワーク(株) 岩国ネットワークセンター	西中国信用金庫 岩国中央支店	日本郵便株式会社 岩国第二部会	東山口信用金庫岩国支店	本郷町自治会連合会
株式会社丸久	美川自治会連合会	美和地域自治会連合会	山口県飲食業生活衛生 同業組合 岩国支部	山口県東部ヤクルト販売(株)
山口県農業協同組合 岩国統括本部	読売新聞山口東部読売会	レク・太陽の会	皆様の協賛金で「見守り人！」は作られています。	

2022年の調査では、高齢者の27.8%、3～4人に1人が認知症であるという結果が出ました。みなさんの身近にもいらっしゃるかもしれませんか？
その大切な人をもっと良く理解してもらうために、活動を続けています。私たちは岩国市認知症の人の見守り支援協議会です。

認知症の今

認知症疾患医療センター
センター長 中村 研 先生にうかがいました。

昔は高齢で生きておられる方が少なかったわけです。今は平均寿命が伸びて高齢化が進んで、その結果当然ですが認知症の方の割合自体が増えている、ということがあります。100歳以上の方でも、10万人近くおられるわけですから、いろいろなところで認知症の方を見かけることが自然になってきていると思います。岩国では中心部のエリアと離れたエリアでは高齢化率が違うので、高齢化率の割合が高い離れた地域の方がどうしても認知症の方の割合が高いという事実があります。

一口に認知症と言いますが、そこはいろいろあるよ、千差万別だと言って言うのが大前提で、僕たちにとっては例えば100人の患者さんがおられたら、100通りの症状があるわけです。僕は明らかに認知症だと考えられる場合にはお伝えするようにしています。ただそうすると、大変だ、もう何もできないんだ、全部忘れちゃうんだみたいに思われて、何もかもお終いだ、ってたいが

いなるんですけど、「そうじゃないですよ、終わりなんかじゃないですよ」っていう話をします。ご本人が日常的に出来ていること、話したり、歩いたり、ご飯を食べたり、それはすごく大切に素晴らしいことだし、なかには畑仕事ができたり、家事をやっている方もおられたり、実にいろいろな方がおられるわけです。

ただ認知症は進行性の病気です。人によって進む速度はさまざまですが、それが止まることはない。だから早期に発見して、早期に治療を始めるほうが良い。そうすることによって、時間が稼げるということがあります。今はまだ、いろんなことができる、でもその状態がずっと続くわけではない、ならば判断力がしっかりあるうちに、この先症状が進んだ時に自分がどうしたいのか、これからの暮らし、家にいるのか、誰かに面倒を見てもらうのか、施設に入るのか、財産はどうするのか。今のうちに美味しいもの



HISTORY 1972～

1972
小説「恍惚の人」(新潮社)出版
認知症を社会問題として認識するきっかけとなった。

1980
呆け老人をかかえる家族の会
(現:認知症の人と家族の会)発足。

1986
厚生省
痴呆性老人
対策推進本部
設置。

1994
「高齢社会」に突入。
(高齢化率14%以上)

2000
介護保険制度
スタート。

2004
「痴呆」から
「認知症」に
呼称変更。

2005
認知症を知る
100万人キャンペーン
(認知症サポーター
100万人キャラバン)
スタート。

2007
「超高齢社会」に突入。
(高齢化率21%以上)

2013
岩国市認知症高齢者
見守り支援協議会
(現:岩国市認知症の人の
見守り支援協議会)
発足。

2017
日本認知症本人
ワーキンググループ
発足。

2019
認知症施策推進大綱決定。
「共生」と「予防」

2020
厚生労働省
認知症本人大使
「希望大使」任命。

2023
やまぐち希望大使設置。
県内で5名に委嘱。
うち岩国市は2名。

2024
認知症基本法施行
共生社会の実現を推進する
ことが明記され、「新しい認知症観」
という考え方が示された。

2026
やまぐち希望大使
(二期目)
県内で6名に委嘱。
うち岩国市は2名。

岩国市(2026年3月末時点)
・認知症サポーター数
16,284人
・認知症キャラバン・メイト数
44人

中村 研 (なかむら けん) 先生
【略 歴】
広島大学卒
以後 広島大学附属病院
加計町国民健康保険病院
県立広島病院、賀茂精神医療センター
安芸太田病院等で勤務
2009年より いしい記念病院
2014年より 認知症疾患医療センター
【専門医等】
精神保健指定医、日本精神神経学会専門医
日本精神神経学会指導医
日本老年精神医学会専門医



✓ 昔は介護保険制度もなかったし、さらに言えば10年前と比べると、選択肢は明らかに増えてきていると思います。例えばアミロイドβ抗体という進行を遅らせる治療薬が出てきたり、ただこれで完全に止まるというところまではいってない。でも早く発見していろいろな治療を進めている間に、別の展開があるかも知れないですよ。他の疾患でもそうですが、ウイルス性の肝炎が薬で治ったりするよう、僕たちにとっては考えられない時代になってきています。世界中で認知症の新薬は研究されているわけで、時間を稼いで長生きしていると、完治につながる新薬が間に合う可能性だってあ

を食べたり、行ってみたいところに行ってみたり。それらを自分自身で決めることができる時間があるという事です。そのためにはADL(日常生活動作のこと。食事・排泄・移動・入浴など)を保つことが大切になってきます。あと内科的な疾患、糖尿病とか、高血圧とか、高脂血症なんかは認知症に影響を与える疾患でもあるので、お持ちの方は継続的に治療することも必要になってきます。そうすることで、症状を悪くさせにくくなる要因につながっていくということがあります。 ✓



委嘱式



まみさん



隅田栄司さん

る。だから、残り時間を、来たる時までの準備という方向性で捉えるという考え方もあるのかなと思います。

「新しい認知症観」ということに関して言えば、まずはやっぱり、わかってもらうということ。認知症っていう言葉はひとつですが、症状はみんな違うということ、進行の速度も違えば、できることも覚えていることも人それぞれ。認知症になったからといって、今すぐ絶望する必要もないですし、何が出来て、何が出来ないかという理解が周りにいる人たちにあれば良いと思います。100人おられたら100人症状が違うというお話をしました。なかにはもちろん、暴力を振るう方や、ひとりで出歩いて帰れなくなる方もおられます。ただその一人二人の症状を見て、みんなそうなると思われるのは間違っています。ある当事者のご家族の方から聞いたんですけど、認知症のおばあちゃんが、お正月にお孫さんにお年玉をくれたそうです。くれたんだけど忘れちゃうんで、おんな

じ子に何回もお年玉をあげてね、孫は大喜び、みたいな微笑ましい話もあります。認知症に対する偏見というのは、結局は見方の問題だと知ってもら、理解してもらうことが一番重要だと思います。そこからイメージを変えていく、認知症になっても、なにも出来なくなるわけでは決してありません。



認知症自体は昔からあるわけで、患者さんが増えたから、昔ほど隠さなくなったから、今社会のいろいろな場面で出会う。けれどもそれは少し先の自分の親の姿、さらには自分自身であるかも知れない。そう思うと、認知症への理解を広げたい、誰もが理解を深めてほしい、中村先生の話を聞いてあらためて強く感じました。

共に生きていく、この町のひとりとして。
(聞き手・豊川佳孝 原芳之)